

SUPER 耐久シリーズ 2010 第3戦

in

鈴鹿サーキット



東 徹次郎

TOHJIRO AZUMA

決勝走れず非常に悔しい結果に！！

予選 NEW タイヤの経験は次に活かす！！

- ・開催サーキット：鈴鹿サーキット（5.807km）
- ・チーム：TRACY SPORTS
- ・マシン：TRACY SPORTS S2000
- ・カーナンバー：#40
- ・クラス：ST-4
- ・ドライバー：A 東 徹次郎 B ADAM HAN C 桑畑 四十郎



予選 (5月29日)

◆Weather : 晴れ ◆Course : ドライ

今回は初の A ドライバーの枠で予選を走り、この第3戦で初めて NEW タイヤを履きました。

本当は前日の占有走行時の際に一度 NEW タイヤを履くのが理想ですが、そういうわけにもいかず予選でぶっつけという形でした。

したがって、自分的にはこの予選で NEW タイヤを履いた際のバランスも見て、決勝でのセットも煮詰めようと考えていました。

晴れていて路面温度も上がってきていましたし、コースインして1周目からすぐグリップ感は感じ取れていました。

この時点で前日の感じと違い、NEW タイヤの効果で非常にマシンがグリップしていたので最初の計測ラップからすぐアタックに入ります。

このラップ、スプーンコーナーまではスムーズに来ていたのですが、スプーンの2つめの左コーナーでロールアンダーが出ていてクリップにつけず、これによってタイムロスしてしまいました。

ここで感じたのは、グリップが上がったことによってマシンのリアの動きが柔らかか過ぎているということです。

引き続き2ラップ目もアタックに入ります。

S字コーナーはリアが柔らかくてロール量が多いため、少しオーバーステア傾向ですが1ラップ目より更に良い感じでクリアしていききました。

そしてデグナーに向かう高速のダンロップコーナー、グリップ感はしっかりあったのでスピードを乗せて旋回しようとはほぼ全開で進入したところ、やはり柔らかいことが影響して路面のギャップの際マシンが大きく動いてオーバーステアになってしまい、大きくタイムロスしてしまいました。

今思えば、このラップが一番タイヤの良い状態だっただけに悔しいですね。一度ここでタイヤを冷やそうとクーリングラップを入れますが、その後はタイムが伸びません。

最終アタックは自分なりに走りをまとめて自己ベストタイムで来ていると思っていたのですが、スプーンコーナー1つめで痛恨のオーバーラン。

結局1ラップ目のタイムがベストとなり、Aドライバー予選はクラス7位で終わりました。

自分にとっては経験と課題の予選となりました。

総合予選順位：クラス 11 位（参加台数 14 台）

※A&Bドライバーの予選タイム合算による

A ドライバー予選タイム：2'25.200

(クラス7位)



決勝（5月30日）

◆Weather：晴れ ◆Course：ドライ

決勝の作戦はCドライバーがスタートで15ラップし、次にBドライバーのアダムが25～30ラップして、最後自分が残り全て走って追い上げるというものでした。

前日の予選の感じから、うちの40号車はリアのスプリングを少し硬いものに変更してもらいました。

午前中30分のフリー走行の際に認しましたが、動きが前日よりも良くなっていて決勝に向けて良い方向になっていました。

スタート後の最初のステイント、69号車と抜きつ抜かれつのバトルを展開していました。

そしてポジションを1つ上げたところでBドライバーのアダムが乗り込みます。

アダムは今回初めての鈴鹿でしたが、レースで自分の予選タイムを上回る走りを見せてくれました。

予想よりもペースが良かったので、自分も交代してからうまくいけば表彰台も見えるという期待で、俄然気合いが入ります。

しかし、その直後画面上に黄色いマシンが映し出されました。ダンロップコーナーで右リアが完全に壊れてスピンしていたのは、うちのマシンです。

原因は、右リアのナックル部分が割れていきなりコントロール不能になった感じでした。

トラブルにより自分はドライビングすら出来ないまま、まさかのリタイアとなってしまいました。

決勝：リタイア（Total:33Laps）

※自分は未出走

反省

今回初めて NEW タイヤを履きましたが、やはり予選のときはタイヤを活かしきれっていませんでした。

どこが一番良いグリップ状態か、グリップ感は何ラップもつのか、そういったものが全て手探りな状態での予選アタックでした。

しかし、今回経験したことによってそういった点がわかったので、次回の富士に必ず生きてくると思います。

ただ狙ったラップでのミスもあったので、そういった点を無くさないといけないですね。

次回の予選までの重要な課題です。

今回決勝は走れませんでした。次回までに更にロングでの走行を見据えてトレーニングもしていきたいと思います。

少し話しは変わってしまいましたが、今回組んだ B ドライバーのアダムとは、ずっと英語でのコミュニケーションでした。

自分にとっては初めての経験でしたので、レース内容とはまた別の意味で良い経験になりました。

コミュニケーション自体は全く問題ありませんでしたが、まだまだ片言の英語だったので、こういった部分もよりレベルアップしていけるよう、日々努力していきたいと思います。



最後に

今回も沢山の応援、本当に有難うございました。
鈴鹿まで足を運んでくださった方々、メールやお電話をくださった方々、本当に応援して頂けるということは力強いです。

今回は、決勝で乗ることすら出来ず非常に悔しい思いをしましたが、これが耐久レースとも言えます。
乗れない悔しさ、もどかしさ、こういったことを経験したからこそ、改めて自分がスタートドライバーだった際、次に繋げるということの大きさを再確認出来ました。

今回トレーシングスポーツとしても、40号車、新車の41号車の両方にトラブルという非常に悪い流れの鈴鹿でしたので、次回の富士は必ずうちに流れが来ると思います。
ここで悪い流れを断ち切って、次回の富士ではこの悔しい経験をしたチームみんなで勝ちにいけますので、どうぞ今後ともご支援ご声援のほど、宜しくお願い致します。

2010年5月31日
東 徹次郎